

うみ そこ 海の底で

ある日のことです。あざやかな オレンジ色の ヒトデの
ファイブと、小さな エンゼルフィッシュの エルフィー、
それに タツノオトシゴの サミーが、いっしょに あそ遊んで
いました。3びきは、かいてい海底の すな砂に からだもぐり 体を くねくね
うご動かして すな砂を あはね上げ、できた おか丘を しろお城に しました。
おうさま王様は サミー、ファイブは ゆう勇がんな きし騎士です。

エルフィーは けらい家来の やく役で、たたか戦いから もどってきた
ゆうし勇士 ファイブの えいよ栄誉を じゅんびたたえる パーティーの 準備で
いそがしくしていました。

それを、クラゲの ジミーが み見ている、すこ少し うらやんで
いました。本当は ほんとう自分も じぶんその 3びきと いっしょに
あそ遊びたかったのに、たかお高く とまっていた、いっしょに
あそ遊んでも いいかなどとは たずねたずねたく なかったのです。



「君^{きみ}たち、くだらない こと して 遊^{あそ}んでるなあ。
この 砂^{すな}の 丘^{おか}、ちっとも お城^{しろ}なんかに 見^みえないじゃ
ないか。ぼくの 足先^{あしさき}で ちょっと おせば、たちまち
ぺしゃんこさ。」そう 言^いうと、ジミーは 笑^{わら}いながら
足^{あし}で お城^{しろ}を ペちゃんこに してしまいました。

「らんぼうだなあ、ジミーは。いっしょに
遊^{あそ}びたいのかい？ きっと 楽^{たの}しいよ。」と サミーが
言^いいました。

「え？ この ぼくが、君^{きみ}たちと 遊^{あそ}ぶだって？ ハハ！
ぼくは もっと ましな こと を するよ。ぼくは
君^{きみ}たちなんかよりも、ずっと 頭^{あたま}が いいんだ。ぼくの
遊^{あそ}びは 君^{きみ}たちには むずかしすぎて、無理^{むり}だよ。」

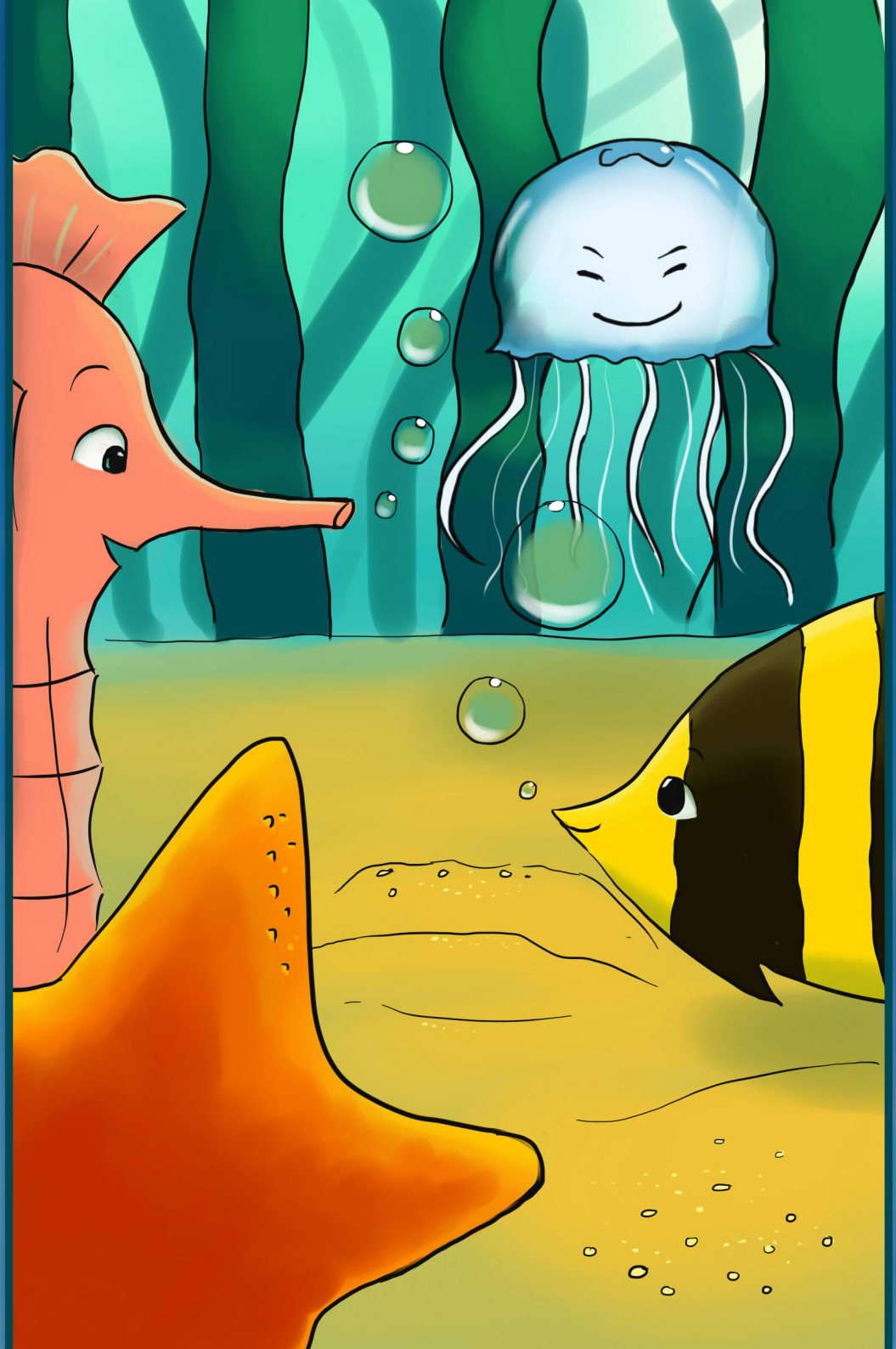


サミーは、ジミーに 友だちが いない ことを
知っていました。いつも みんなに 意地悪するからです。
ほかの クラゲたちでさえ、ジミーと 仲良く なれない
くらいなのです。そんな ジミーが かわいそうで、
仲間に入れてあげたいと 思いました。「君の 知ってる
遊びを してみたいな。みんなも、どうだい？」サミーは
ファイブと エルフィーの方を 向いて、言いました。

「いいとも。」と、熱の こもった 返事が 返って
きました。みんな、新しい 遊びが できる ことに、
わくわくでした。

「じゃあ、かくれんぼを しよう。君たちが 先に
かくれろよ。すぐに 見つけてやるから。その 次は、
ぼくが かくれるからね。そしたら、君たちが ぼくを
見つけるんだぞ。」ジミーは くすくす 笑いながら
そう 言うと、数え始めました。「100 まで 数えるからね。
1-2-3・・・。」

「どこに かくれようか？ 砂の お城を 作って
かくれても、ジミーに たちまち け散らされちゃう
だろうしな。」エルフィーは ちょっと 心配そうです。



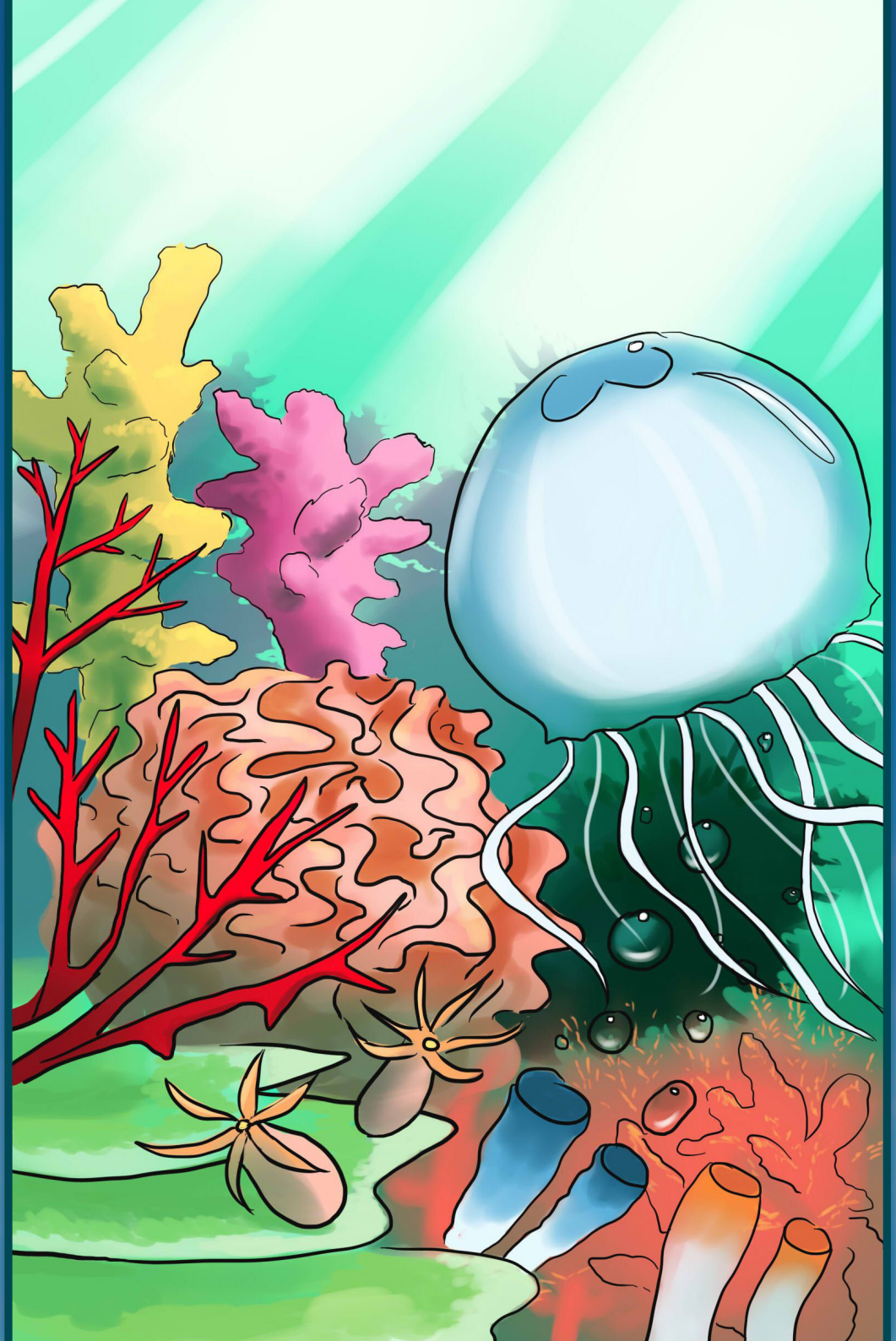
みんな、ジミーに ^み見つからないような ^{ばしょ}いい場所が
^{おも}思いつきません。

「あっちの ^{ほう}方は ^{おお}どうだろう？」 ^{おお}大きくて
^{いろ}色とりどりの ^{しょう}サンゴ礁の ^{ほう}方を ^{ゆび}指さしながら、ファイブが
^い言いました。「ばらばらに ^わ分かれて ^わかくれるんだ。」

エルフィーと サミーは うなずいて、みんな、すばやく
かくれました。

「もう いいかい。」 100 ^{かぞ}数え終わった ^おジミーが
さけびました。

ジミーは ^{あた}辺りを ^{みまわ}見回しましたが、3びきの ^{あそ}すがたは
どこにも ^{たの}ありません。楽しそうに ^{およ}あっちこっち ^{まわ}泳ぎ回り
ながら、みんなを ^{さが}探しました。いっしょに ^{あそ}遊ぶのって、
^{たの}楽しいなと ^{おも}思いました。さて、サミーは ^み見つかりましたが、
エルフィーと ^みファイブが ^{しょう}見つかりません。サンゴ礁は
とても ^{おお}大きいのです。ジミーは ^{わら}くすくす 笑いながら
^い言いました。「^ま負けたよ、エルフィーと ^でファイブ。出てきて。」



すぐに エルフィーと ファイブが 出てきて、ジミーと
サミーの 所へ 泳いできました。

「みんな、上手に かくれたね。ぼく、すぐに 見つかる
とおも 思ったんだけどな・・・。」 ジミーは ファイブの 方
を見てから、エルフィーを 見、最後に サミーの 方
を見て、はずかしそうに たずねました。「ねえ、明日も
また、いっしょに 遊んで いい？」

「もちろんだよ！」みんなは 声を そろえて 言いました。
「いっしょに 遊ぼう！」

その 日から、4ひきの 仲良したちは、毎日 いっしょに
あそ 遊びました。3ひきは、新しい 友だちが できるのって、
ステキだなあとおも 思いました。そして ジミーは、もし
とも 友だちが ほしいなら、みんなの 前で いばるのではなく、
やさしくする ことを 学びました。

